

くらしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mainichi.co.jp

性別悩む生徒支えよう

ないというシレンマもある」

セミナーを企画した東優子・大阪府立大准教授(ジェンダー研究)

性同一性障害(GID)や同性愛など性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の子供もたちを理解し、差別や偏見のない学校づくりを目指そう。そんな動きがようやく、教育関係者の中で活発になってきた。

「ひょっとして、こ

境界を生きる

学校現場で

①



日本性教育協会のセミナー「児童・生徒と性同一性障害」を熱心に受講する教育関係者。大阪市北区で8月

の子は性別のことで悩んでいるのではないかと。そう感じたら、まず何をすべきですか」

8月下旬、JRD大阪駅近くの大学サテライトキャンパス。日本性教育協会が主催した夏季セミナーの会場は、参加申し込みを事前に打ち切ったにもかかわ

らず、定員を超過100人以上で埋まった。テーマは「児童・生徒と性同一性障害」。小中高の教職員や各地の教育委員会関係者が目立った。

埼玉県の小学校がGIDと診断された児童に学校生活上の性別変更を認めたいことを受け、文部科学省は4月、「児童・生徒の心情に十分配慮した対応を」と全国に通知した。しかし、現場の教員らに

差別、偏見なくしたい…教諭ら講習で対応考え

的な心掛けをアドバイザーに求めた。また、文科省の通知は学校に医療機関との連携を求めているが、この日のセミナーで専門的なジェンダークリニックがある地域として紹介されたのは10都道府県にも満たず、会場からは「実態に即さない通知だ」との声が漏れた。

民ネット)との連携事業で、同会スタッフが講師を務める。県人権・同和対策課の長尾政昭課長補佐は「正直に言って、行政としては対策が手薄になりがちな分野。専門知識を持つNPOの力を借りて、まずは教職員に正

識できない人、揺れている人、変わる人もいる③周囲が勝手に決め付けない④周囲との「違い」を否定しない——を挙げている。柴田俊和書記次長は「全国の学校などから注文が相次ぎ、1000部増刷した。当事者の高校生から『先生たちが自ら考えてくれたことが、泣きたいほどうれしい』という手紙も届いた」と反響の大きさに驚く。サポートブックはホームページ(<http://www1.ocn.ne.jp/~jtu-nara/>)からダウンロードできる。

は「どうすればいいのかわからない」とか「教師も悩む」とか「講師を務めたGID学会理事長の中塚幹也・岡山大学院教授は「対応に決まりはない。まずは子どもに『親身になって聴いてくれる人だ』と思ってもらうことが大切」と、基本

調査では、教諭の4人に1人が性別への違和感に苦しむ児童・生徒に接した経験があった。この日受講した50代の女性小学校教諭も「性別のことで悩んでいる児童がいたが、自分からはなかなか明かさそうとせず、対応に苦慮した」と話す。「『プールに入りたくない』とだけ言われた場合、わがままとの見極めが難しい。特別扱いはいじめを引き起こしかね

も指摘されている。子どもたちが一人で抱え込まないように、教育関係者の理解促進に積極的に取り組む自治体や民間団体も現れた。大阪府は今月中にも中学校などの教職員を対象に「セクシュアル・マイノリティの人権」と題した出前講座を始める。性暴力被害者の相談事業などに取り組むNPO法人「えびの会(女性と子ども性の性)と人権を考える市の性」の性のある方が認

■セクシュアル・マイノリティと学校生活に関するQ&A

Q: 同性愛と性同一性障害はどう違う?

A: 同性愛は性的指向(興味や恋愛の対象)が同性に向かうこと。性同一性障害は自己の性別認識が体の性別と食い違うこと。性的指向が異性と同性のどちらに向かうかは関係ない。

Q: 性別のことで生徒が悩んでいるようだ。本人には確かめていないが、どう対応すればよい?

A: まず話しかけてみる。次にそういったテーマの本を教室や図書室や保健室に置いたり、授業中に何気なく話題に挙げ相談しやすいきっかけを作る。大事なことは知識があることではなく、知ろうとする姿勢を見せること。教諭が笑いのネタとして「オカマ」「ホモ」などの言葉を使うと、本人はますます学校での居場所をなくす。

Q: 性別に違和感のある子の精神的苦痛を和らげる環境整備の例は?

A: 制服を男女で分けて、例えばスカートかズボンか選べるようにする。トイレは男女兼用の場所を設けたり、職員用を使えるようにする。更衣室は別室を使わせたり周囲から遮断されたコーナーを作る。水泳授業はレポート提出などの代替措置を検討。宿泊行事の部屋割りや風呂は本人の意向を確かめる。

※大阪府立学校人権教育研究会のリーフレットなどを基に作成



教育関係者の理解促進のために作られたDVDやリーフレット

また、「共生社会をつくる」セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク(<http://kyoseinet.jp/>)も3月、当事者が学校時代に何かつらかったかを振り返るインタビューを中心に構成したDVD「セクシュアル・マイノリティ理解のために子どもたちの学校生活とこころを守る」(送料別1500円)を作製。事務局長の杉浦郁子さんは「GID以上に理解が進まない同性愛にも力を入れて作った」と話す。

【丹野恒一、写真も】